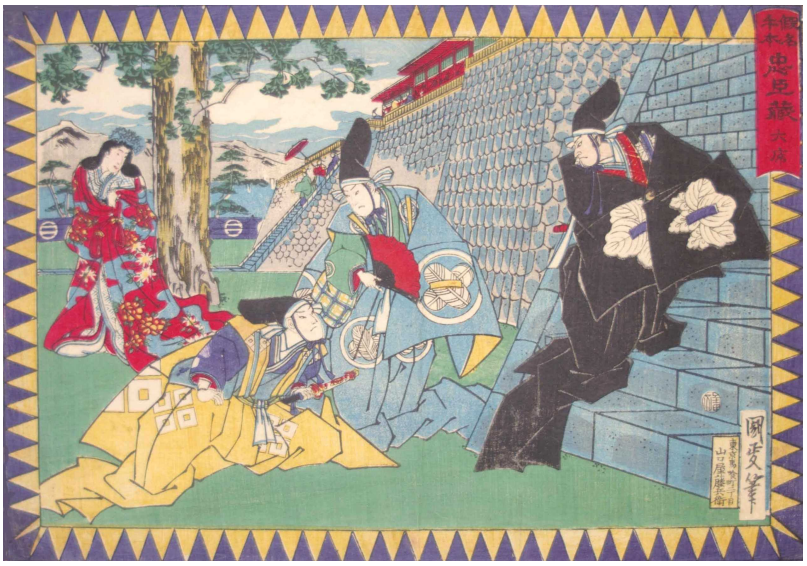
秋田県

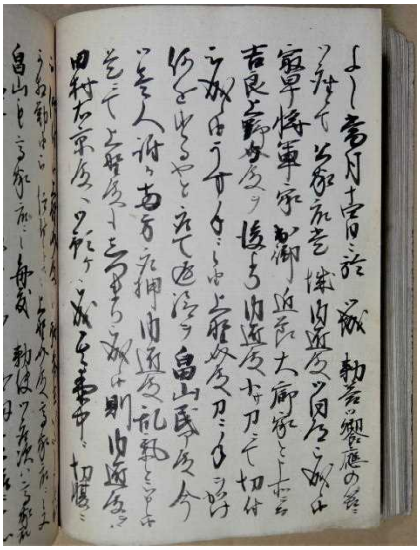
公文書館だより

第45号

令和6年3月7日



「錦絵 仮名手本忠臣蔵」（吉田78）



「岡本元朝日記 七」（混架7-380-7）

元禄14年（1701）3月14日、江戸城の松之廊下で勅使饗応役浅野内匠頭長矩が高家筆頭吉良上野介義央に刃傷に及びました。

当館が所蔵する秋田藩家老の「岡本元朝日記」3月25日の条には、江戸藩邸からの書状で知られた伝聞が記録されています。上野介が「何をするや」と刀に手を掛け応戦態勢を取ったなど、誤伝も混じっていますが、事件のあらましが細かく書かれています。

「岡本元朝日記」は翻刻本を刊行しており活字で読むことができます。また、原本が比較的読みやすいくずし字で書かれており、令和5年度の古文書解読講座の初級編でテキストに使用しました。

令和6年度も、当館の古文書解読講座にご期待ください。

来年度の行事予定

◆**連携展**
（東成瀬村ふる里館）
未定

◆**企画展**
（前半）8月22日～9月23日
（後半）9月26日～11月4日

◆**公文書館講座**
●**古文書解読講座**
6月28日・7月5日・7月12日
●**記憶の護り人養成教室**
5月9日・6月13日・7月11日
8月8日・9月12日・10月10日
11月14日・12月12日

◆**県政映画上映会**
8月29日（木）・30日（金）

今後の情勢によっては変更の可能性もあります。御了承ください。

利用案内

◆**開館時間**
平　日　9時～19時
土日祝日　9時～18時
（書庫内資料の利用申請は17時まで）

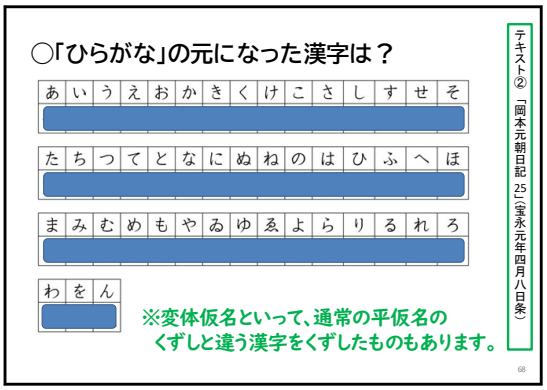
◆**休館日（令和6年度）**
毎週水曜日（祝日の場合は木曜日）
年末年始　12月28日～1月3日
特別整理期間
1月16日～1月28日

休館日についてはウェブサイト、または当館内の掲示等で御確認ください。

令和5年度の古文書解読講座

当館は今年度全6回の講座を開催し、延べ64人に受講していただきました。初級編は延べ85人、中・上級編では延べ79人の内訳でした。

初級編では当館翻刻事業の社会への還元として、すべて「岡本元朝日記」を教材に使いました。表紙で紹介した松之廊下の話のほか、5歳の息子を疱瘡（天然痘）で失う元朝の心情、元朝の江戸までの道中記などエピソードを選び抜き、スライドショーを駆使して古文書のくずし字解読の初歩をじっくり学んでもらいました。また、中・上級編では当館所蔵の様々な古文書から、秋田戊辰戦争、秋田藩財政の成立期、遊女の暮らしなど、古文書を歴史の話を交えて読み解きました。ある程度以上読める方を対象にして、初級編より長めの教材を読み進めました。



初級編のスライドショー教材（第２回）

受講者からも、初級編では「説明が楽しく、かつ学習の基本に戻ることができた」「元朝の書いた字は読みやすい」など。中・上級編では「歴史の裏側を知ることができた」「歴史もくずし字も全体的に分かって貰おうとする気持ちが伝わった」などの感想が寄せられました。

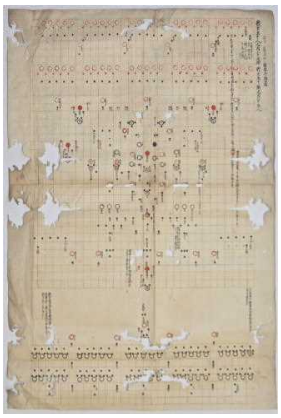
令和6年度の古文書解読講座は、5月下旬に募集を開始しますので、当館HPや館内のチラシ・ポスターほかで御確認の上、お早めにお申し込みください。

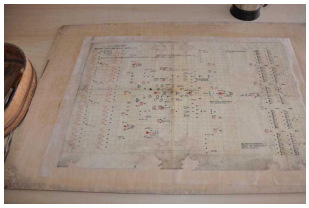
所蔵史料の修復について

当館所蔵資料には、個人プライバシー情報の非公開年限が過ぎていないため閲覧に供していない近現代の文書があります。その一方、江戸時代や明治時代の作成の文書でも、虫損や水損、裂けや破れなど紙の劣化が原因で閲覧困難なものもあります。

当館では、それらを年次計画で修復し、順次来館者に閲覧公開できる形にしています。本紙第44号では、企画展「アーカイブズのチカラ」で展示した修復後の古絵図2点を紹介します。

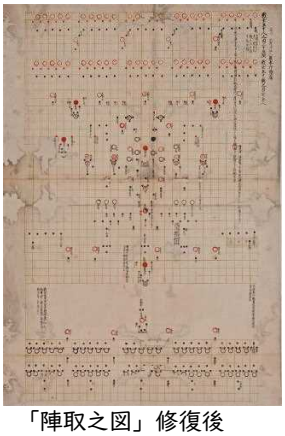
本号では史料修復のビフォー・アフターを、平成4年度に修復した「陣取之図」（落ー524）を写真で見てみましょう。この史料の特徴は秋田藩士の戦いに対する考え方が分かることで、修復後は戊辰戦争に関する出前講座に活用されています。


「陣取之図」修復前



修復は表具の一級技能士の資格を持つ文化財保存修復学会正会員である専門家に委託しました。作業前に、写真撮影・採寸・損傷の診断等を記録するとともに、酸性度についてPH測定を行います。修復方法は、和紙を使用した裏打ちで、接着剤は化学的な糊を使用せず、正麩糊等を使用しました。

令和5年度は「金照寺公園設計図」（県C-6-7）、「無標題地図」（県C-680）、「秋田県下第一大区一小区分測図」（県C-638）を修復しました。6年度から公開予定です。


「陣取之図」修復後

放送県民大学に関する記録

～「知事祝辞挨拶」から～

資料紹介

本館には県知事が各種行事で挨拶した原稿が歴史公文書として保存されています。公開点数は139点で、4052件の挨拶文が綴られています。本紙ではこの中から「放送県民大学」に関するものを紹介します。

昭和46年（1971）4月1日、県は『秋田県第3次総合計画』を策定し、生涯教育を県政の三本柱の一つに位置づけました。これは当時の小畑勇二郎知事の強い意向を反映してのものです。実はその頃は、生涯教育を政策に位置づけた県は他になく、国でさえも手をつけていない状況でした。それにもかかわらず小畑知事が生涯教育を推進したのは、第一にコンピューターが必要とされる社会になったこと、第二に価値観の変化、第三に大量消費時代への対応、第四に余暇時間の有効利用、という四つの理由からです。（小畑勇二郎『秋田の生涯教育』）

昭和47年度に始まる「放送県民大学」について、小畑知事は、翌年8月20日に行われた「民間放送教育協会東北・北海道地区研究協議会」の挨拶で次のように述べています。

〈前略〉テレビは最早私たちの日常生活に欠くことのできないものになりました。それだけ私たちは、目に見えない大きな影響を受けていることになります。そのテレビを本県では、生涯教育を推進する立場から重要な学習メディアとして捉え、個人学習や集団学習に積極的に取り入れ、その効果を高めるため〈中略〉市町村には、放送による個人学習奨励事業に対して助成し、県は放送県民大学の開設を二つの大学に委託し、放送事業者を加えた三者で県民の学習機会を拡充するよう努めております。〈後略〉

（『知事祝辞挨拶一〇』：010102000010）

この頃テレビは一部の文化人から「一億総白痴化」の象徴と見なされていました。しかし県では生涯教育推進の手段として活用したのです。

昭和47年度に秋田経済大学で開講した「商店経営コース」の場合、受講生は「一億人の経済」（NHK総合）を視聴して秋田経済大学にレポートを提出し、同大学で開かれるスクーリングに参加するというものでした。『知事祝辞挨拶九』（010102000009）には、昭和48年1月21日の第5回スクーリングの概要が綴られており、そこには、大学教員による「現代従業員の動機づけ」と「秋田県と県民の経済力」の講義の後、受講生から経営分析数値の算出方法について数式を示して欲しいとの声が上がったことが記されています。

昭和48年度聖園学園短期大学で開講した「幼児と家庭教育コース」は「お母さんの勉強室」（NHK教育）と「すぎの子ひろば」（ABS秋田放送）を視聴し、レポートを聖園学園短期大学に提出、スクーリングは親子で参加し、午前は短大に託児して母親は学習、午後は親子で保育の実習を受けるというものでした。その後、放送県民大学は、49年度に聖霊女子短期大学で「国際理解コース」、50年度には秋田大学で「人間と環境コース」が開かれるようになりました。

昭和51年（1976年5月25日、NHK秋田放送局での「放送県民大学合同開講式」にて、小畑知事は次のように挨拶しています。

私は昭和四十六年に初めて生涯教育を取り上げましたが、その時から、県民の高まる学習意欲を満たすには、どうしても大学を地域に開放して、これに協力していただくことが、最も重要なことであると考えております。そのため放送県民大学を計画し〈中略〉こうして四つの大学が揃って合同開講式を挙げられるまでになり、全く嬉しいことであります。〈後略〉

（『知事祝辞挨拶一九』：010102000009）

放送県民大学は昭和58年度まで開講され、受講生総数は5042人に上りました。

本県から全国に広まった「生涯教育」は、今日では「生涯学習」として私たちの生活に根づき、放送県民大学の手法を更に発展させた放送大学も開学しています。生涯教育・生涯学習の歴史を紐解くと、小畑知事の先見性と情熱、そしてそれに共鳴した多くの県民の姿が見えてきます。

【畑中康博】

▲書庫内の「知事祝辞挨拶」

金易右衛門の書状

とっておきの話

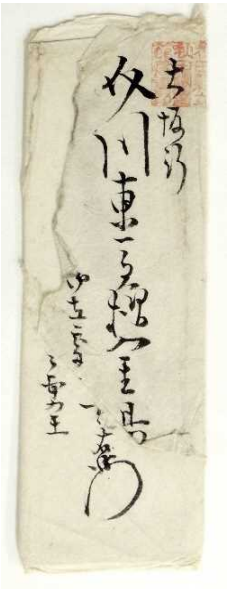
今回は、東山文庫にある金易右衛門という人の書状を紹介します（AH3-2-247-1）。

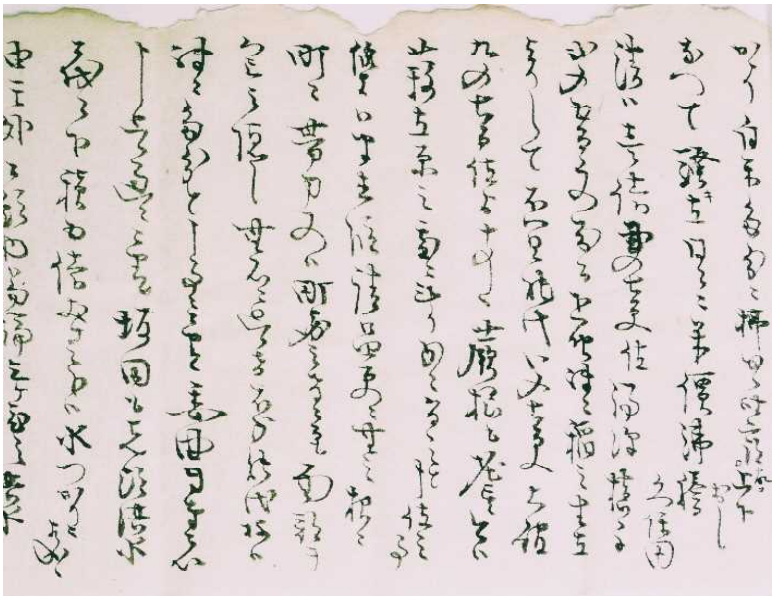
日付は7月13日とあります。年は書かれていませんが、内容から天保4年（1833）のものだとわかります。勘定奉行介川東馬に宛てたもので、当時介川は大坂の藩蔵屋敷に勤務していました。

介川の日記の、天保4年7月29日の条には、

金易右衛門より内書ニ、久保田・湊ハ壱俵弐貫七百文、湯沢・横手ハ弐貫五百文、能代ハ石ニ付八貫七百文、大館ハ九貫七百文位より十貫文、蕨根も堀尽今ハ藪立之所ニ計少々有之と申位之事、質ハ半直段、請質一円無之、夜ニ町々帯刀又ハ町家之もの面を包み無心ニ廻候もの不少、能代なとハ殊ニ多分、去年ハ其表御調達ニ而御凌被成候へとも今年ハ術策も尽き候

とあります。下にあげた写真は、金の書状の一部ですが、ほとんど同じであることがわかります。したがって、現在東山文庫に入っているこの文書は、介川が日記に書きつけた手紙だとみて間違いないでしょう。





金は、後期の藩政を主導した能吏の一人です。文化4年（1807）の箱館出兵では陣場奉行を務め、大坂商人鴻池又右衛門の蔵元就任を実現し、養蚕方を指導して殖産政策を進めたのも彼でした。また、久保田への米の回漕の不手際の責めを負って一時失脚するまでは、勘定奉行を兼務しつつ、仙北筋三郡の郡奉行を務めました（平鹿・雄勝は郡奉行助力）。

この手紙には、天保4年の大凶作・飢饉に先立って、領内の不穏な様子が事細かに書かれています。

今年は天候が不順で、入梅でも照り続いたと思えば、能代の山王祭の時期には袷では間に合わず綿入を着てしのいだとか、米不足で「此節ニ至り大工町・十軒町・牛嶋共ニ出米一円無之、搗屋ハ家業休居候仕合」、「上下おしなへて騒キ立、日々ニ米価沸騰」と、人心も不穏な状態にあると言っています。

川口御蔵の備米はすべて使い果たし、北の丸の御蔵には籾で一万四〇〇〇石、四ツ小屋御蔵には五〇〇〇石あるが、今後お救いなど実施することになれば、備蓄米は一か月ももたないだろうと予測しています。近国も同じ状態で、今の米相場を考えればかえって大坂で米を買い、国許へ回漕した方がよいとも言っています。

ただ、昨日から快晴で、四、五日もたてば早稲は穂が出揃うだろう、十日もこの天気が続けば例年の「半作」くらいにはなるだろうと言っています。ですから、この段階ではまだ大凶作が決定的となっていたわけではないことがわかります。それでも、能代では飯米がないので、代金は能代方から送るから、大坂で二〇〇〇石くらいも送ってくれないかと頼んでいます。

やがて金の不安は的中することになります。介川の日記9月7日の条には、ふたたび届いた金の手紙には、良くて例年の二割半の出来高だとある、と記しています。

天保の大飢饉はすぐ目の前に迫っていました。

【金森正也】

今年度も大繁盛！あきた県庁出前講座

「あきた県庁出前講座」は、秋田県生涯学習推進本部が主催し、県民の要望に応える行政分野の職員を派遣し、専門知識と経験を元にして講座を開催する事業です。当館では、所蔵資料の公文書や古文書、県政映画などを材料にした美味なる出前を県民の皆様にお届けしています。今年度は、昨年度の22件を超える23件の出前を行いました。

①昭和史の中の婦人会（南楢岡婦人会：大仙市南楢岡）、②県政ニュースで見る秋田（御所野の歴史文化を語る会：秋田市御所野）、③昭和史の中の婦人会（横手市連合婦人会）、④同（能代市連合婦人会）、⑤おらだの記憶展in東成瀬村（東成瀬中学校）、⑥古文書教室（東成瀬村教育委員会）、⑦昭和史の中の婦人会（飯田川婦人会）、⑧公文書から見られる大仙市の食生活（食生活改善推進協会：大仙市）、⑨昭和史の中の婦人会（大仙市地域婦人団体連絡協議会：大仙市南外）、⑩県政ニュースで見る昭和40年代の秋田（秋田市南部市民サービスセンター・なんぴあ：秋田市御野場）、⑪クニマスはなぜ生き残ったのか（奥羽エコール：秋田市）、⑫昭和史の中の婦人会（男鹿市中央女性学級）、⑬出羽一国御絵図ものがたり（河辺雄和神社総代会：秋田市雄和）、⑭昭和史の中の婦人会（平鹿町婦人会：横手市平鹿町）、⑮「おらだの記憶展in横手市」展示解説（横手郷土史研究会）、⑯公文書にみる西仙北地域の歴史（西仙北高等学校）、⑰ぐっとくる古文書LIFE（秋田の史跡を学ぶ会：秋田市広面）、⑱能代幕末随感（『能代山本の先人たち』協作実行委員会：能代市）、⑲古文書教室（東成瀬村教育委員会）、⑳慶応4年秋田戊辰戦争に見る戦争の姿（中央ナイスミドルカレッジ：秋田市山王）、㉑昭和史の中の婦人会（仙北市婦人会：仙北市西木町）、㉒おらだの遠い記憶を学ぶひととき（大仙市神岡中央公民館）、㉓昭和史の中の婦人会（川内婦人会：由利本荘市鳥海町）

来年度も実施しますので、希望される団体・グループは県の公式ウェブサイトで実施要綱を御確認の上、当館まで、お問い合わせください。

第18回出前講座「能代幕末随感」

記録されたクニマスの生態

- 体色 ： 灰黒（普通マスのような白光無し）
- 習性 ： 日光の届かない深い湖底に棲息
  日光を非常に嫌う
- 形状 ： カワマスに似るが、割合尾びれの根元が広い
- サイズ ： (大) 体長 約37cm、体高 約7cm、体重 約398g
  (小) 体長 約30cm、体高 約6cm、体重 約338g

第11回「クニマスはなぜ生き残ったのか」

県政映画上映会

昭和30～50年代、テレビが各家庭に普及していなかったころ、県の仕事を幅広く知ってもらうために「県政ニュース」などの名称で各地の映画館等で巡回上映を行ってきました。現在、当館で保管されている映像は三百本余りです。それらをDVD化し、その一部を大きなスクリーンで鑑賞できる上映会を毎年実施しています。

今年度は、8月31日と9月1日の両日、当館3階の多目的ホールにて上映し、約百名の方に御覧いただきました。

今までは昭和30年代の白黒映像中心に上映しておりましたが、お客様層の変化に対応し、今回は昭和40年代後半から50年代前半を題材にして上映会としては初のオールカラー映像でお送りしました。放映後のアンケートでは「当時のことが思い出された」など新たな客層にも見てもらえました。また、11月3日には開館30周年記念として秋田市ALVEでも多くの皆様に御覧いただきました。当館2階閲覧室においても常時、御覧いただけますのでお気軽にお立ち寄り下さい。

【梅田浩彰】

グラフィック・レコーディング

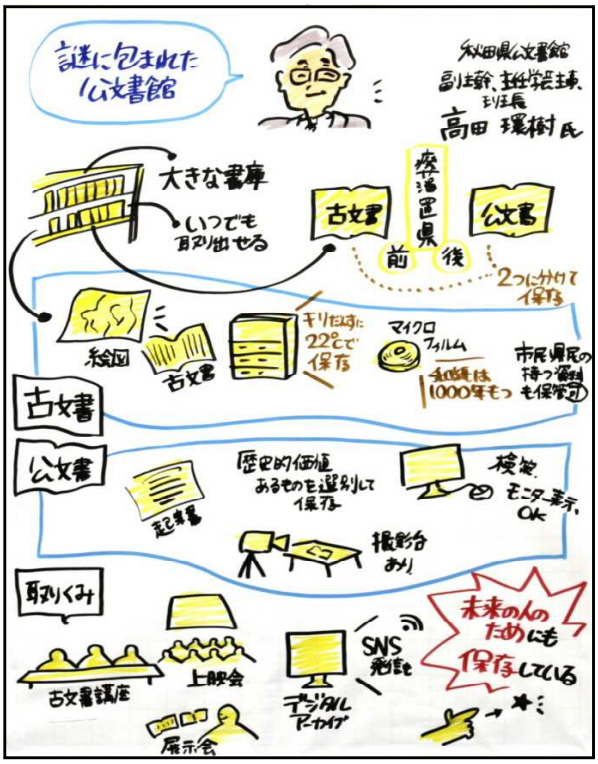
絵や図形を駆使して話をビジュアル化♪

昨年11月に開催した開館30周年特別企画「Akita Archives Fes 2023 ～あすへ語りつなごう！秋田の未来～」の第2部「公文書館ってナニ？トークライブ」と第3部「しゃべり場」では、当館で初めてグラフィック・レコーディングの手法を採り入れました。壇上で話している内容をリアルタイムで要約し文章や絵図を使いまとめて可視化することです。

例えば第2部「謎に包まれた公文書館」の内容は、左のとおりグラフィック・レコーディング化。謎のベールが見事に取り払われ、「公文書館ってこんなところ」と絵や図形でわかりやすく説明されています。

さて、一般には馴染みが少ない複雑な内容の話を、初めて聴く人たちに伝える場合、耳から聴いただけでは話の流れが見え難く、全体像もなかなか分からないものです。公文書館や歴史資料保存などの話も、関係者が聴けば、左上の図のようなストーリーがすぐに頭に浮かびますが、一般にはそうはいきません。

グラフィック・レコーディングは、誰もが話の内容を共有できる手法です。公文書館は敷居の高い「謎」の施設ではなく誰もが利用できることをビジュアルで表現しました。【須釜健一】



出張！秋田県公文書館

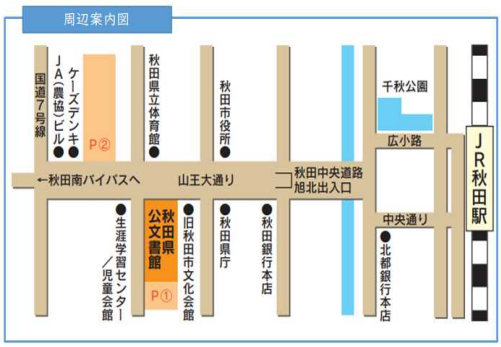
秋田県指定有形文化財 旧松倉家住宅

江戸時代、交通や流通の要だった街道の合流地点の大きな町人の家の旧松倉家住宅で松倉家開館1周年記念イベントとして公文書館所蔵の公文書・古文書をセレクトして展示します。江戸・明治の書物や久保田城下町に関する古地図のほか、松倉家に残されていた秋田市所蔵の「松倉家日記」も初公開されます。

場所　秋田県指定有形文化財
旧松倉家住宅
秋田市旭南二丁目7番25号

日程　3月9日（土）
～3月24日（日）

時間　9時～16時30分
（火曜日休館）



当館X（旧ツイッター）はこちらからどうぞ

編集後記

昨年秋、横手の実家で、尋常高等小学校の教員だった祖父の文書をじっくり読んでみました。北海道の小学校に勤務していた意外な事実、秋田に帰る際に同僚達が祖父に贈った寄せ書きが伝える90年前の熱い友情、平鹿郡の横手から隣の雄勝郡内の小学校に単身赴任した時に祖母と交わした夫婦の手紙、赤ん坊だった父の成長を伝える手紙、物心ついた父が幼い文字で書いたお土産の絵本をねだる葉書、米国人宣教師と親しかったクリスチャンの側面。そして地元の近代俳句界での仲間との交流など文人の側面。結核を患い40代で世を去った祖父の様々な貌が見えました。展示準備の最中、偶然祖父の教員としての履歴書を発見した時は大興奮。改めて先祖調べのお客様の気持ちを実感しました。（柴）

編集発行：秋田県公文書館（秋田市山王新町14-31 県立図書館と併設）
電話 018(866)8301　FAX 018(866)8303　　最寄りバス停：県立体育館前
URL　https://www.pref.akita.lg.jp/kobunsyo/